



# 日進北小だより

令和4年1月7日 1月号 第9号

電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標:心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する  
～日本一 すてきなあいさつ 日北っ子～



## 新年あけましておめでとうございます

校長 平塚 信也

新たな年、新たな学期を迎えて元気いっぱいに登校してきた子どもたちの顔を見ますと、充実した年末年始を過ごした様子がうかがえます。学級で「三学期の目標」や「今年の抱負」をしっかりと話している様子に頼もしさを感じました。三学期の登校日は1年生から5年生は52日6年生は50日と1年間の中で最も少なくあまり時間がありません。その短い中で6年生は進学への、1年生から5年生は進級への準備を、教職員は新年度からの学校作りへの準備を進めていきます。

まだまだ終息が見えないコロナ禍も2年を経過しました。感染対策以外にもコロナ禍は従前から指摘されていたIT環境や格差社会など様々な問題をあらわにし、加速度的な変化を日本にもたらしています。社会が変われば未来を生きる子どもたちに求められる資質や能力も変わってきます。新年を迎えるにあたりもう一度どんな学校にしたいのか、何が子どもたちに必要なのか自問してみました。今最も大切にしたいのは児童ひとり一人に「学ぶ楽しさ」を育てていく教育をしたいということです。インターネットの普及、グローバル化の進展、AIの台頭等により、知識をたくさん持ち、その知識のとおり間違いなく行動し問題を解決できる人材の育成から、世界中の問題を自分事として捉え、正解のない現実の問題を見つけ、その解決策を考え、確信がないながらも意思決定し、試行錯誤しながら問題に取り組んでいくことのできる人材の育成への転換です。困難な正解のない問いに立ち向かっていくには生涯にわたり学び続ける必要があります。その根底にあるのが学ぶ楽しさです。勉強＝教えられるもの(受動的)から勉強＝発見・獲得していくもの(能動的)と感じられる種を小学校時代にまきたいと考えています。そのためにはコロナ禍にあっても、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が必要です。ひとり一人の興味や関心に基づいて問題発見探求型の授業を構成していくことです。それには教員も授業観を変え、研究していかなければなりません。もちろん学年の発達段階に応じて展開していきますが子どもの興味・関心・気づき・発見を大事にし、学ぶ楽しさをあじわわせていくことを根底に知識伝達型の教育からの変化を目指していきます。子どもの興味関心は様々ですからすべてを教師が知っていることはもはや無理となります。教員の役割は知識を与えるのではなく子どもが知識を獲得できるようにガイドし、子どもの学びが深いものになっていくようにガイドする子どもの学びの伴走者となることになってきます。

本年特に力を入れていく教育が2つあります。SDGs(国連の掲げた「持続可能な開発目標」。「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を世界のみんなで2030年までに解決していこう」という計画・目標)のための教育です。もう一つはSTEAMS(科学(science)、技術(technology)、工学(engineering)、芸術(art)、数学(mathematics)、スポーツ(sports)の頭文字から。)教育(理科、家庭科の技術分野、算数で育成を目指す資質能力と、他の教科等で育成を目指す資質能力をそれぞれ1つ以上育む教科等横断的、探求的な学習の総称)です。詳しい説明は機会を改めさせていただきますが、どちらも関連しあっています。少々堅い話になり大変恐縮ですが、新年の抱負としてお伝えさせていただきました。保護者の皆様、地域の皆様、学校に関係する方々のご理解ご協力が一番の支えとなります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。